



2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算補足説明資料

2024年11月14日
大石産業株式会社
(東証スタンダード、福証：3943)

1. 会社概要 p2~
2. 2025年3月期第2四半期（中間期）決算概要 p10~
3. 中期経営計画の進捗および
2025年3月期業績予想 p19~
4. 株主還元 p26~
5. 参考資料 p30~

1. 会社概要

社名	大石産業株式会社
設立	1947年2月（創業：1925年4月）
所在地	福岡県北九州市八幡東区桃園2-7-1
資本金	466,400,000円
決算期	3月
従業員数	599名（連結）（2024年9月末時点）
株主数	3,877名（2024年9月末時点）
事業内容	包装資材の製造販売（パルプモールド、段ボール、フィルム、重包装袋）等
連結子会社	CORE PAX(M) SDN.BHD.（重包装袋の製造販売） ENCORE LAMI SDN. BHD.（ラミネート製品の製造販売） 柳沢製袋株式会社（重包装袋の製造販売） 株式会社アクシス（各種情報機器販売、映像・デザイン等の各種情報コンテンツの制作業等） FUSIONS TRADING MALAYSIA SDN.BHD.（マレーシア国における日本農産物等の輸入販売）



代表取締役社長 山口 博章

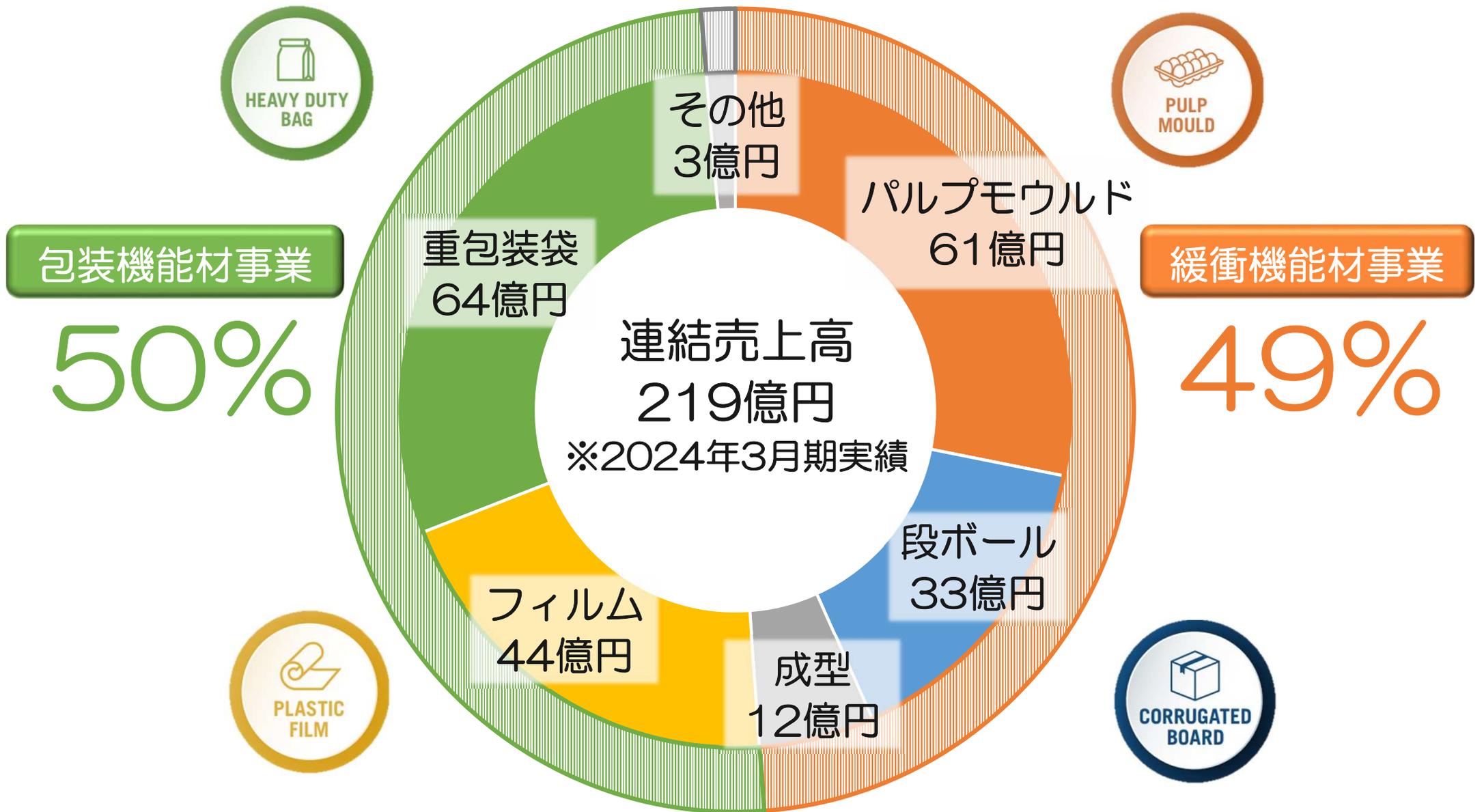
★: 本社

●: 営業拠点 国内12拠点、海外2拠点

●: 生産拠点 国内6拠点、海外2拠点



「未来を包む大石産業」 包装資材の総合メーカー



緩衝機能材事業



パルプモールド

鶏卵パック



食品容器



工業品用トレイ



ドリンクキャリア



トマトトレイ+ケース



鶏卵トレイ+ケース



段ボール

工業用ケース



農畜産用ケース



ゆりかご



成型

食品トレー



包装機能材事業



フィルム

食品用フィルム



衛生材料用フィルム



他 電子材料向け等

重包装袋



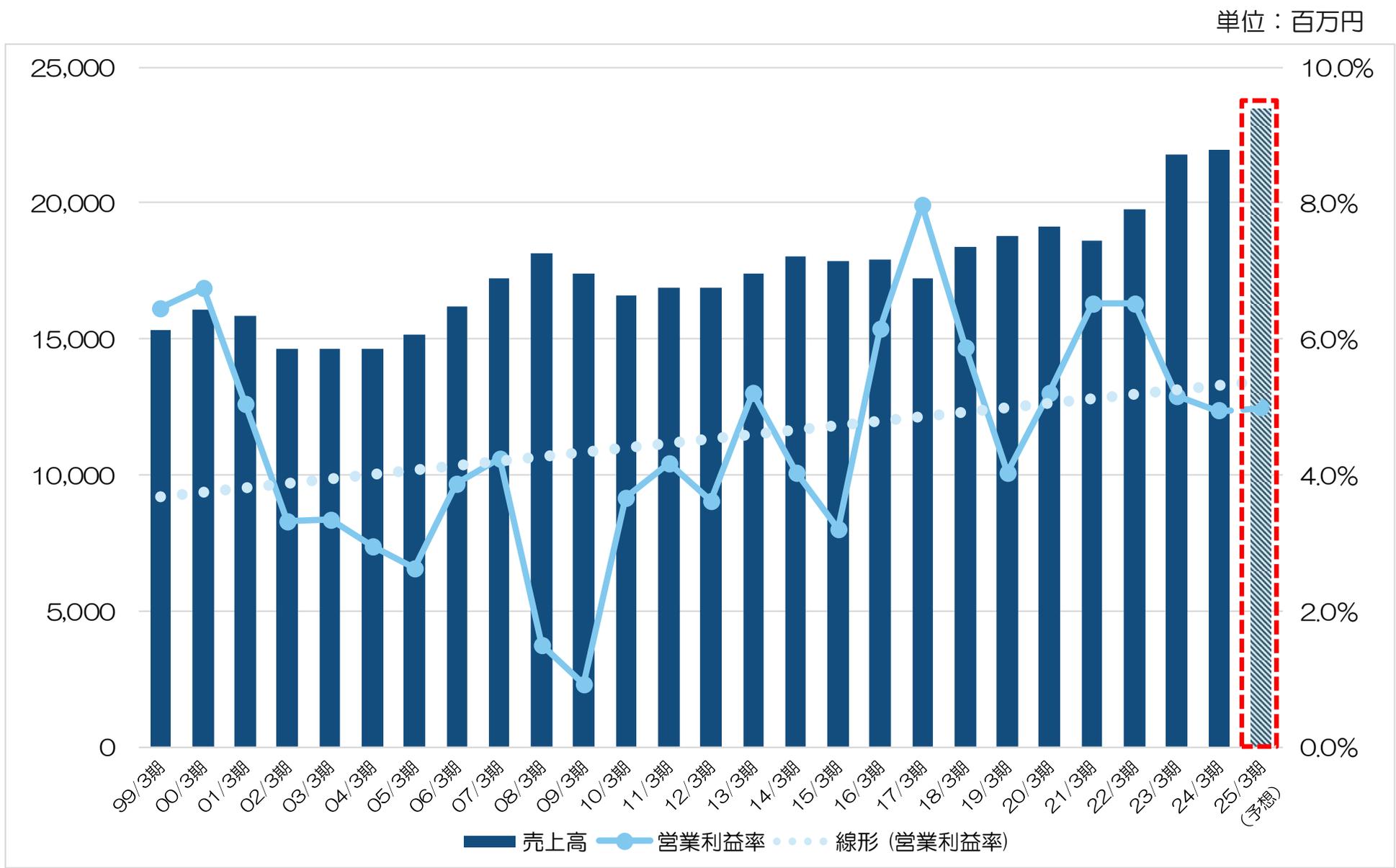
業務用小麦粉用・化学薬品用・合成樹脂用等



- 1925年 大石商店創業 藁工品・麻袋製品の販売
- 1947年 株式会社大石商店設立 スコップ等の製造・販売を開始
- 1949年 **重包装袋**の製造・販売を開始
- 1953年 **段ボール**の製造・販売を開始
- 1963年 **パルプモールド**の製造・販売を開始
- 1967年 **フィルム**の製造・販売を開始
- 1980年 **福岡証券取引所**に株式上場
- 1986年 北九州市に株式会社アクシス設立
- 1990年 マレーシアにCORE PAX(M) SDN.BHD.設立…**業界初の海外進出**となる
- 1994年 シンガポールにシンガポール営業所開設
- 1999年～**包装資材分野に注力**
- 2013年 マレーシアにENCORE LAMI SDN.BHD.設立
- 2019年 柳沢製袋株式会社を子会社化
- 2022年 **東京証券取引所 市場第二部**に株式上場 ※現スタンダード市場
- 2024年 マレーシアにFUSIONS TRADING MALAYSIA SDN.BHD.設立
- 2025年 創業100周年へ



□ 原材料価格やエネルギー価格高騰等の影響を受けるため、利益の増減はあるものの1947年の設立以来、赤字はなし



2. 2025年3月期第2四半期（中間期） 決算概要

前年比<増収減益>

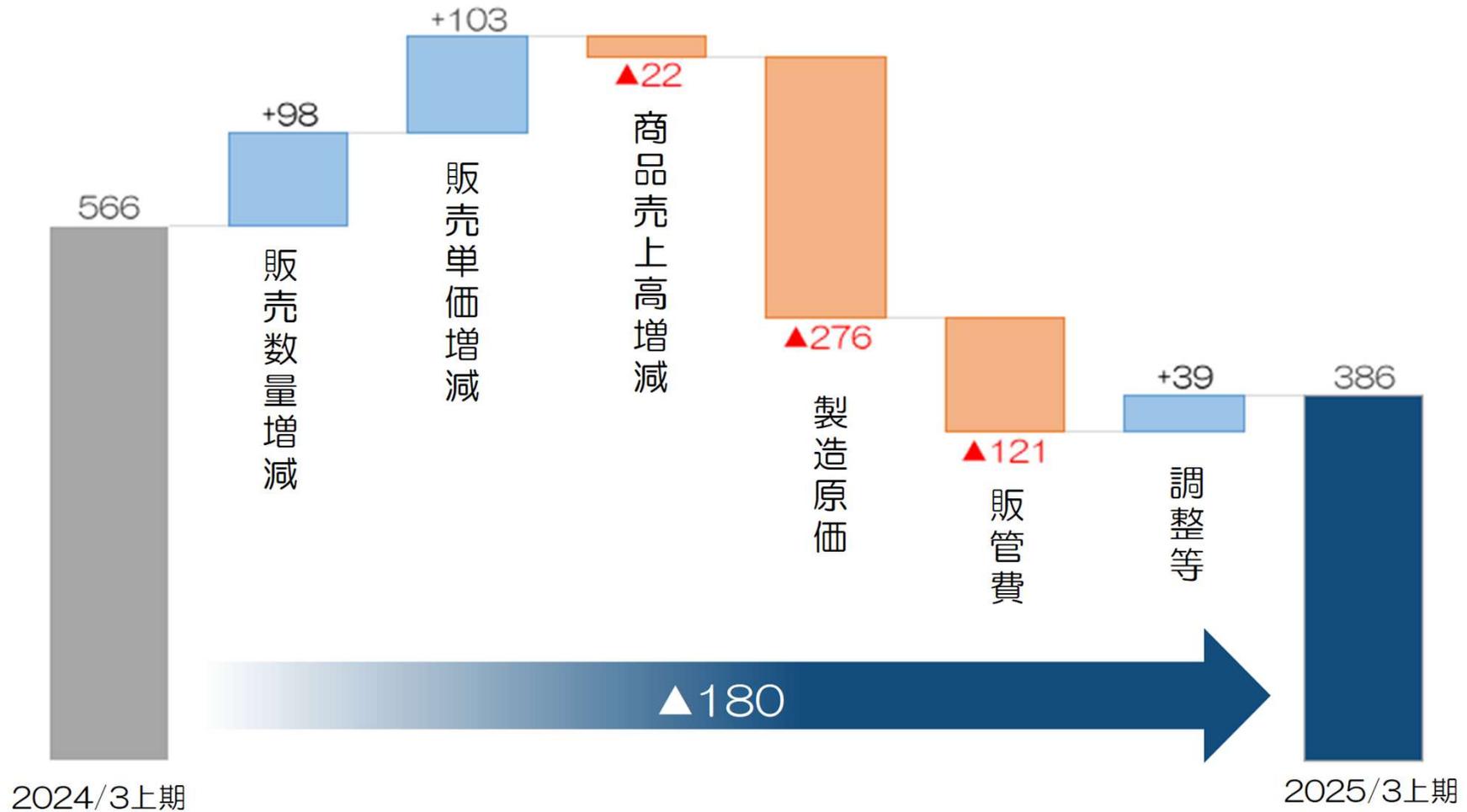
- 売上高は、青果物向け段ボール製品・パルプモールド製品および国内合成樹脂向け重包装袋製品の数量減の影響はあったものの、各製品における販売価格修正効果に加え、海外重包装袋の販売数量回復、事務機器用パルプモールドトレーおよびキャストフィルムの拡販等により、増収
- 利益は、人件費や減価償却費等の増加および為替差損の発生等により、減益

(単位：百万円)

	2024/3上期 実績	2025/3上期 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	10,811	11,440	+628	5.8
営業利益	566	386	▲180	▲31.8
経常利益	717	469	▲248	▲34.6
親会社株主に帰属する 中間純利益	608	444	▲164	▲27.0

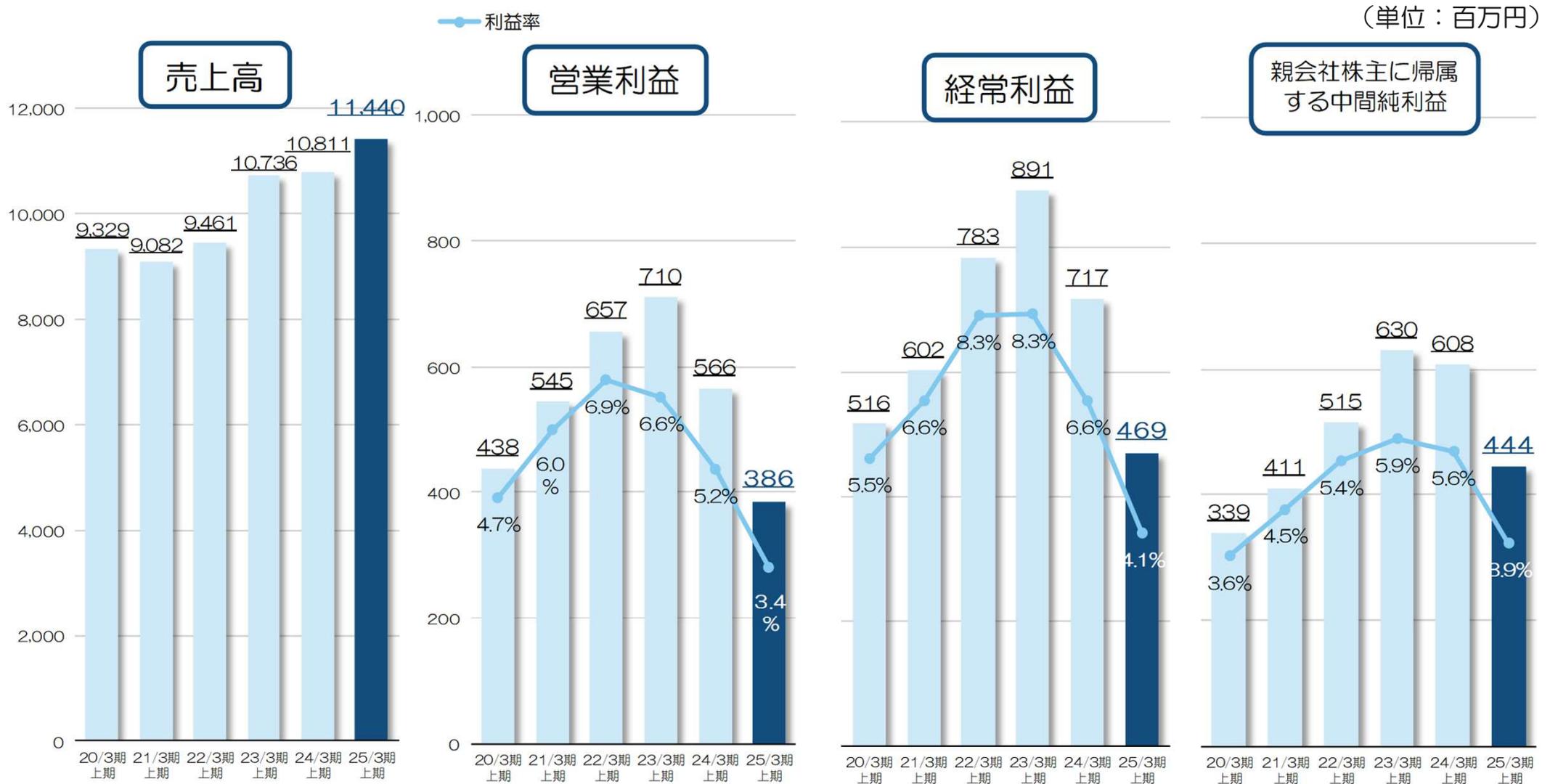
+	各製品における販売価格海外重包装袋事業の販売回復や、事務機器用パルプモールドトレイ、キャストフィルムの拡販等
-	人件費の増加や、積極的な設備投資による減価償却費の増加等

(単位：百万円)



□売上高は、引き続き堅調に推移

□経常利益は23年3月期をピークに、円安、原材料価格の高騰等を背景として
下降傾向



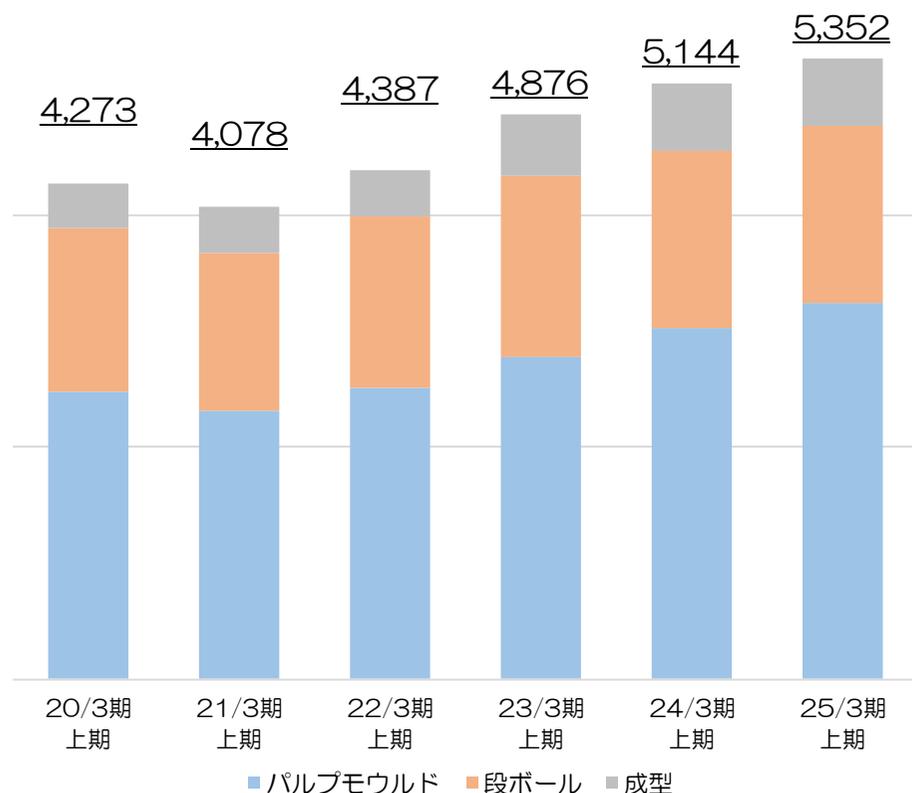
□売上高（前期比+207百万円）

- 主にパルプモールド事業の増収によるもの（前期比+212百万円）
- パルプモールドは、青果物向けは猛暑の影響から販売減となったものの、事務機器用トレーの新製品投入により販売数量増となったこと、および販売価格の修正により増収
- 段ボール、成型については前期並みとなった

□利益（前期比▲113百万円）

- 人件費の増加や減価償却費の増加、燃料価格の上昇等により減益

売上高推移 (単位：百万円)



セグメント利益推移 (単位：百万円)



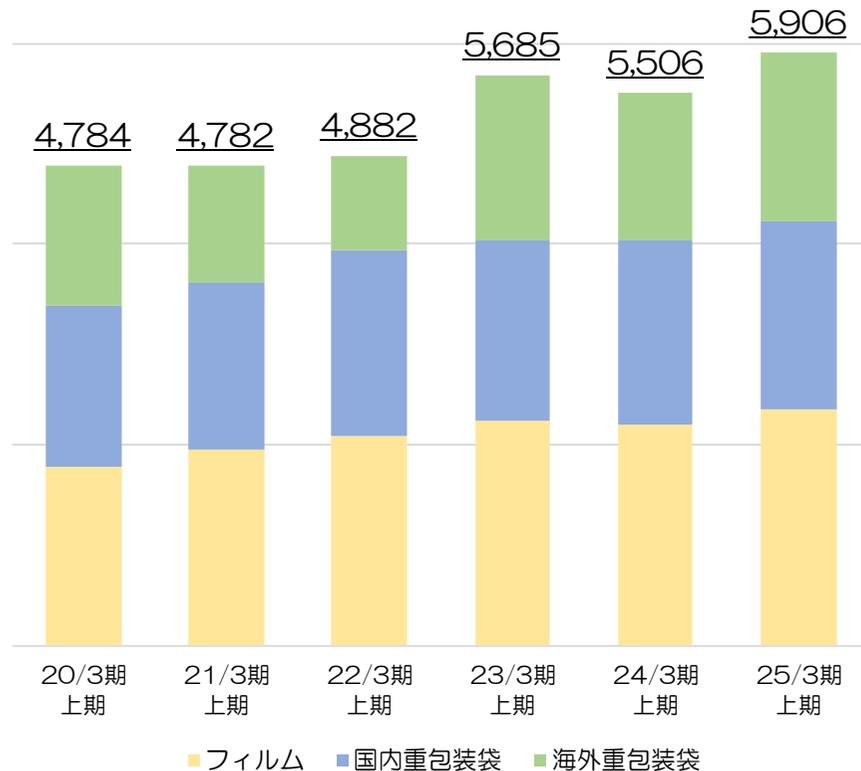
□売上高（前期比+400百万円）

- 主にフィルム事業、海外重包装袋事業の増収によるもの
- フィルムは、食品容器用ポリスチレンフィルムの販売数量は微減となったものの、工業用キャストフィルムの増販、および原材料価格の値上がりに伴う販売価格の修正により増収
- 海外重包装袋事業は、食品向け的大幅増、および合成樹脂向けの販売回復により増収

□利益（前期比▲4百万円）

- ほぼ前年並みで推移

売上高



セグメント利益

(単位：百万円)



連結貸借対照表

OSK

(単位：百万円)

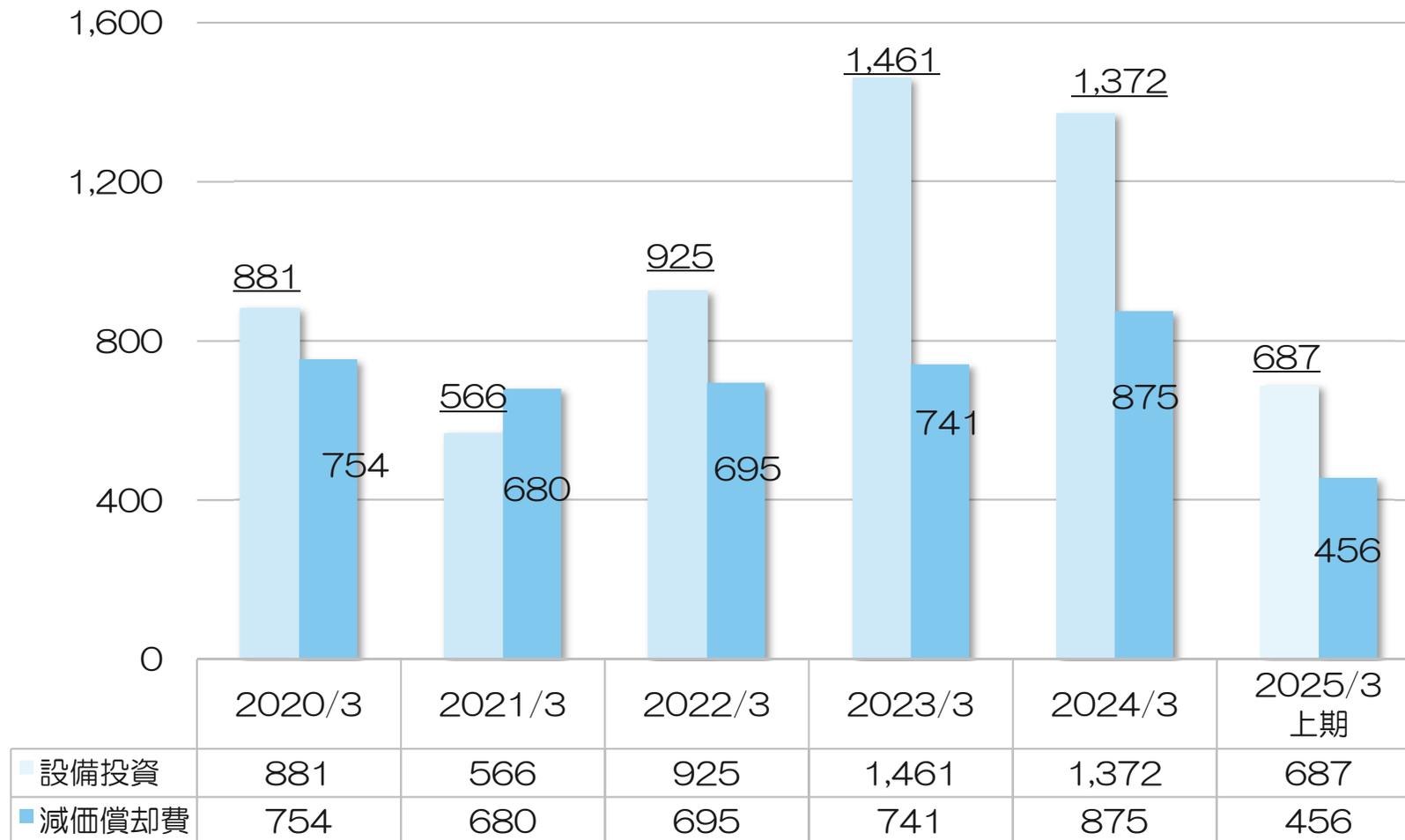
	2024/3/31	2024/9/30	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	15,406	15,256	▲149	▲1.0	受取手形、売掛金及び契約資産の減少等
固定資産	10,666	10,936	+270	2.5	機械装置及び運搬具、その他の有形固定資産の増加等
資産合計	26,072	26,193	+120	0.5	
流動負債	6,575	6,237	▲338	▲5.1	支払手形及び買掛金、未払法人税等の減少等
固定負債	1,756	1,747	▲9	▲0.5	—
負債合計	8,332	7,985	▲347	▲4.2	
純資産合計	17,740	18,208	+467	2.6	
負債純資産合計	26,072	26,193	+120	0.5	
自己資本比率	67.8%	69.3%	+1.5%	—	

(単位：百万円)

	2024/3 上期	2025/3 上期	増減額	主な増減要因
営業活動 キャッシュ・フロー	764	1,122	+357	売上債権の減少による増加
投資活動 キャッシュ・フロー	▲469	▲775	▲306	有形固定資産の取得による支出の増加
財務活動CF キャッシュ・フロー	▲297	▲286	+10	長期借入金の返済による支出の減少
現金及び現金同等物 の中間期末残高	7,433	7,352	▲81	

□将来に備え、償却費を上回る積極的な設備投資を実施

(単位：百万円)



3. 中期経営計画の進捗および 2025年3月期業績予想

〈中期経営計画 経営方針〉

1. パルプモールド、段ボール、フィルム、重包装袋の主要の4製品における事業課題解決のスピードアップを図り、早期に計画を達成する。
2. イノベーション活動を核に、積極的な設備投資を行い、製品事業の成長を推進する。
3. 脱プラ、脱炭素の潮流に沿ったSDGsに資する活動や製品開発を進める。
4. 社員にとって働きがいのある職場環境を整備し、社員と共に会社の発展を目指す。

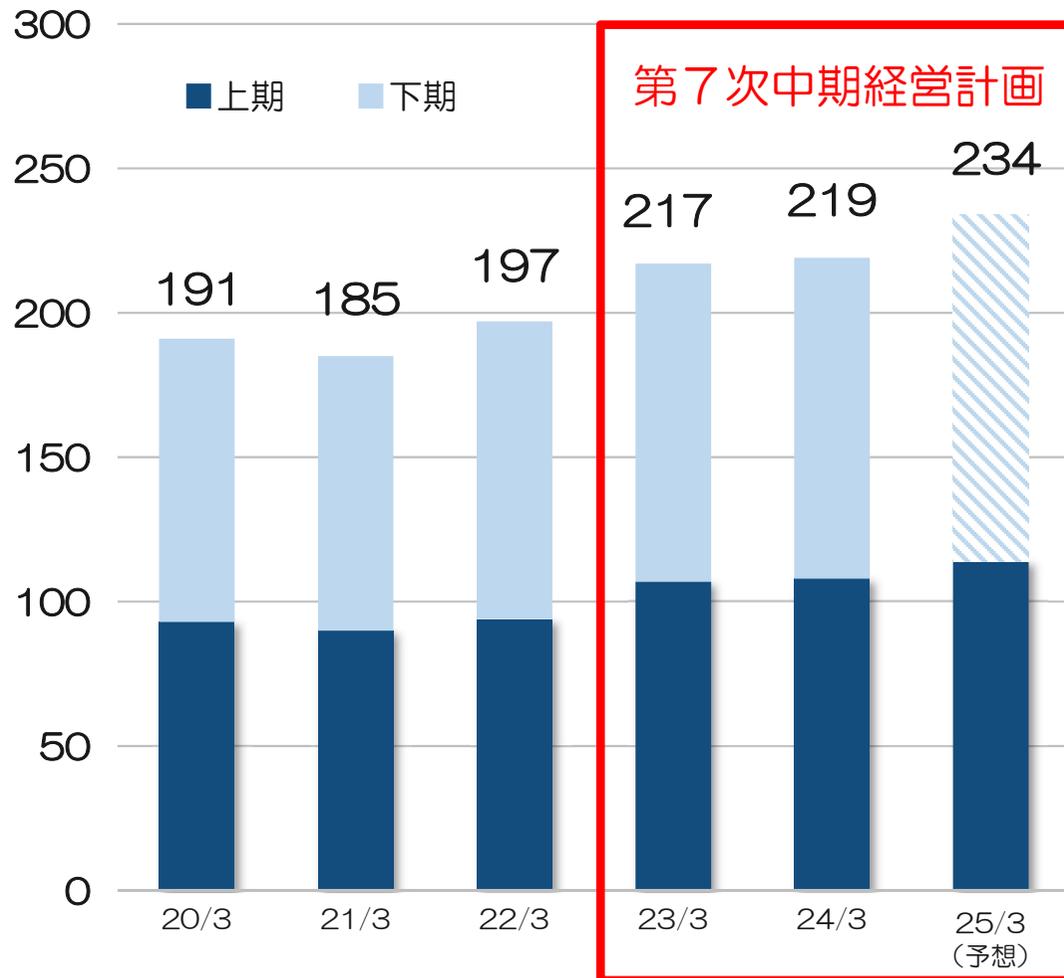
中計最終目標 ※24/5/10修正
(2025年3月期)

売上高 234億円 経常利益 14億円 経常利益率 6.0%

- 売上高は拡販および価格改定の効果等で増加しているものの、経常利益の伸びは停滞
- 事業運営コストの上昇分は、下期に反映させ収益改善を図る

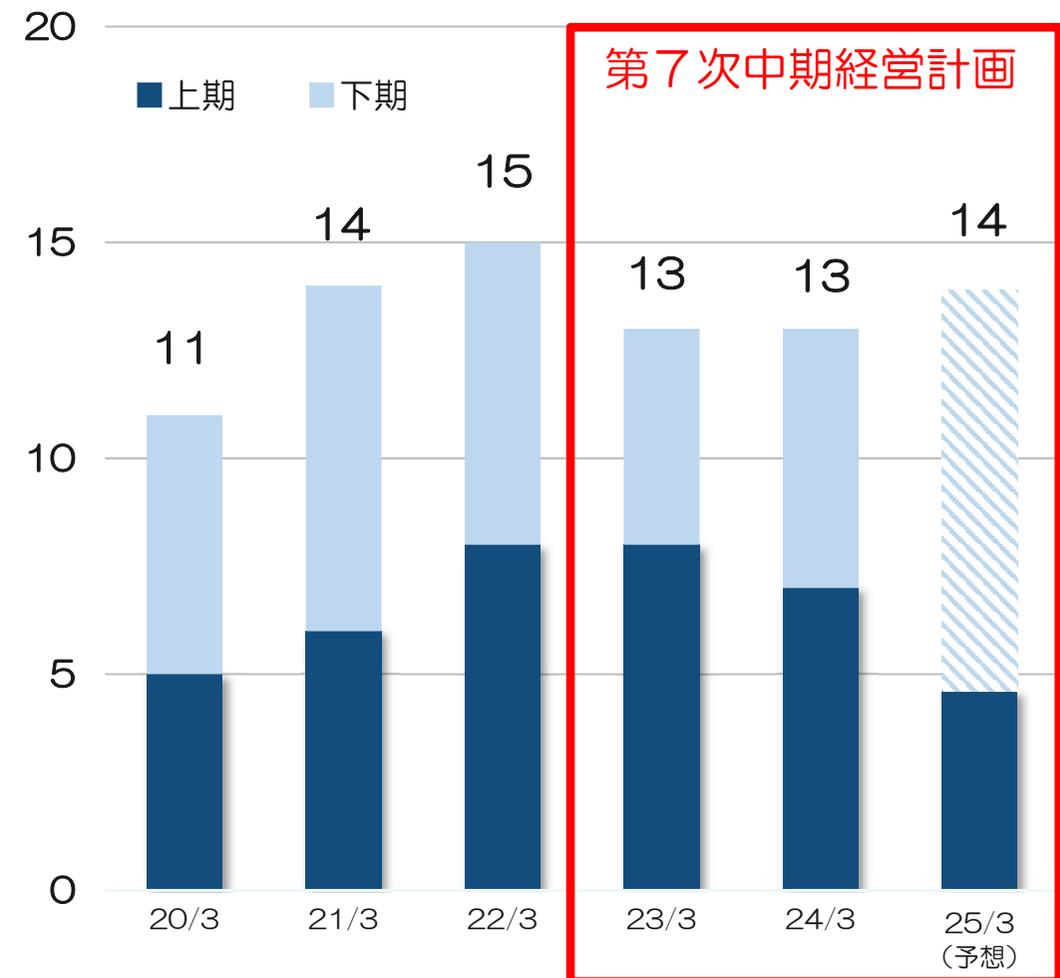
売上高

単位：億円



経常利益

単位：億円



□進捗および見通し

- 上期は、前年比増収・減益
- 下期は、前年比増収・増益の見込

価格改定の浸透、進行中の拡販活動の効果により、収益回復の見込

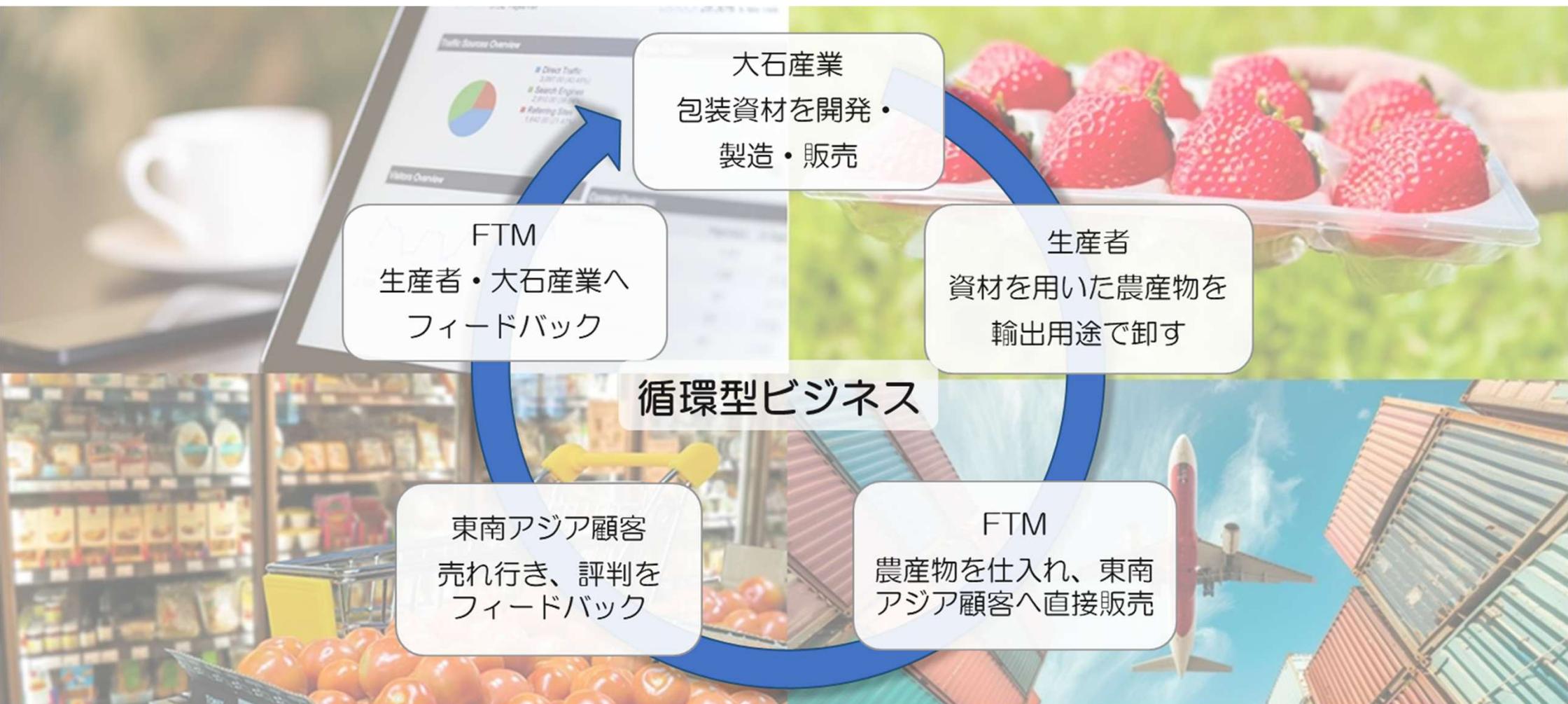
（単位：百万円）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想 (中計最終目標)	増減額	増減率 (%)
売上高	21,964	23,450	+1,485	6.8
営業利益	1,086	1,170	+83	7.7
経常利益	1,347	1,400	+52	3.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,065	1,025	▲40	▲3.8

□マレーシア・クアラルンプールに子会社を設立

「FUSIONS TRADING MALAYSIA SDN.BHD.」（以下略：FTM）

□大石産業が製造・販売する包装資材を用いた、高品質な国産農産物（いちごや桃、ぶどう等）や他日本産品を輸入し、東南アジアにて販売を行う



□パルプモールド新製品「パラミル（パルプモウルドラミネーション）」が
公益社団法人日本包装技術協会主催の2024日本パッケージングコンテストにおいて
「ジャパンスター賞（消費者団体推薦賞）」を受賞、10年連続の入賞となった

パルプモールドは、古紙を原料とした環境に優しいエコな包装資材として
注目を集めているものの…

「水や油に弱い」「紙粉が発生する」といった弱点があった

- POINT -

- ①耐水、耐油、紙粉抑制、強度UP、美粧性UPが可能
- ②トップシール加工が可能で、中身が見えるパッケージ
- ③プラスチック容器からの切り替えにより、減プラ効果
- ④ラミネート部分を剥がすことにより古紙として回収が可能



□新グループビジョン策定

パーパス (私たちの存在意義)

未来を包む -Inclusion for Future-

私たちは、お客さまの製品にとどまらず、社会の未来を「包む」ことで、人々や地球環境を包摂し、社会に有用な存在であり続けます。社会の多様性や多くの意見を尊重し、社員一人ひとりの幸せと持続可能な発展を目指します。

ビジョン (私たちの目指す姿、理想像、あるべき姿)

循環型社会に最適解を提供する

私たちは、循環型社会に包装の最適解（スマートパッケージ※）を提供し、社会のニーズに応える製品を開発、製造し、持続可能な社会の実現に貢献します。

バリュー (私たちが持つべき価値観、価値基準)

- 誠実** - 誠実な行動と透明なコミュニケーションで信頼を築きます
- 挑戦** - 困難に立ち向かい、未来を切り拓きます
- 協創** - 多様なパートナーと協力し、成果を分かち合います

※スマートパッケージ…効率的かつ環境に優しいパッケージ

4. 株主還元

※（ ）内は株式分割を考慮しない場合の金額

□株式分割の実施

〈目的〉

投資単位あたりの金額を引き下げることにより、投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大ならびに株式の流動性向上を図る

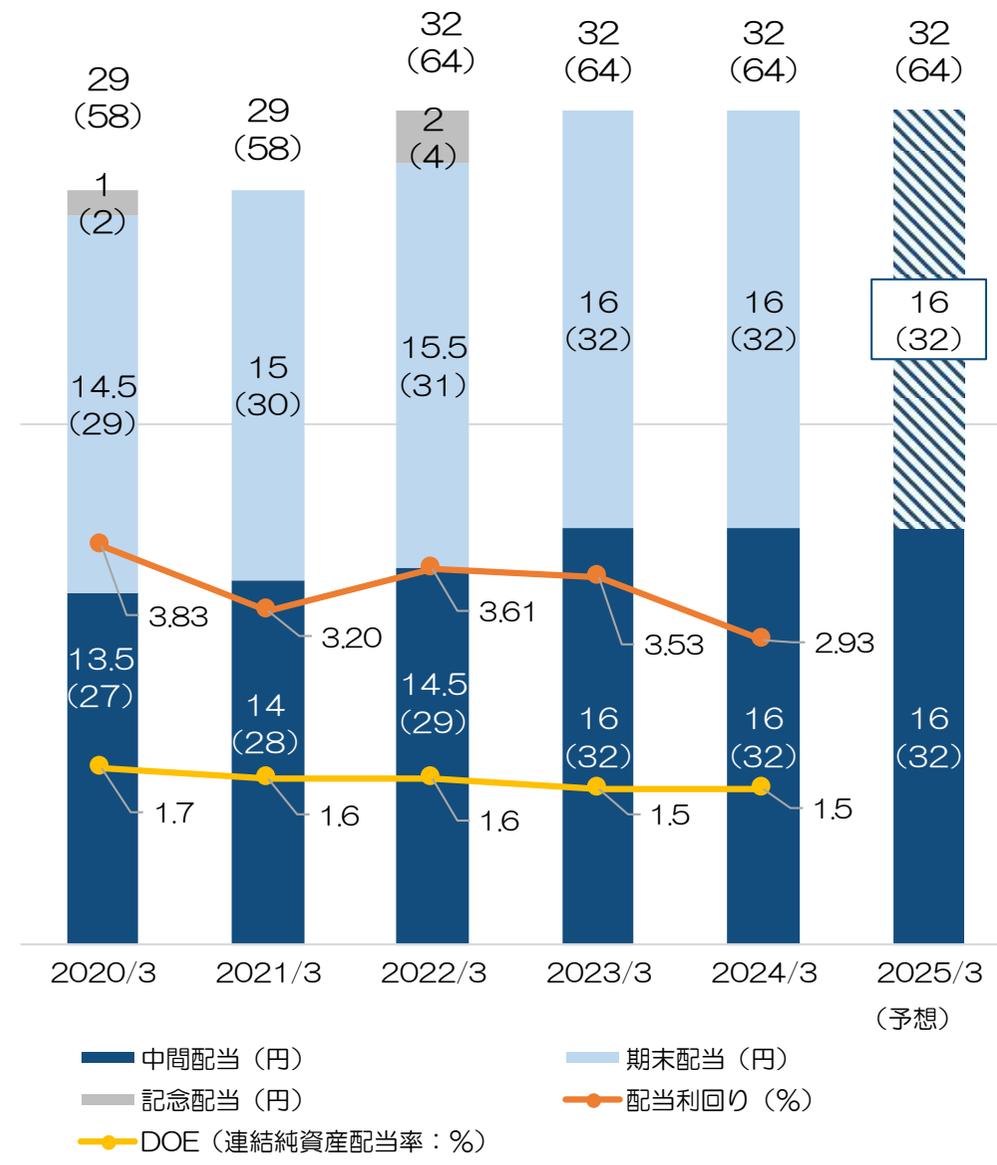
〈概要〉

2024年10月1日を効力発生日とし、1株につき2株の割合で株式を分割

□配当方針

- 生産性の向上等による利益体質の強化を図りながら、将来の事業展開に備えた内部留保を確保しつつ、DOE1.5%以上を目安に、安定的に配当を実施する方針としている
- 1980年の上場以来、一度も減配、無配がなく安定した配当を継続

1株あたり配当金



株主優待制度の変更（拡充）

株主優待制度の変更、および長期保有優遇制度の導入

変更前（株式分割前）

保有株式数	優待内容
100株以上1,000株未満	QUOカード 1,000円分
1,000株以上	QUOカード 3,000円分



変更後（株式分割後 1株→2株）

保有株式数	優待内容
100株以上500株未満	QUOカード 1,000円分
500株以上1,000株未満	QUOカード 2,000円分
1,000株以上	QUOカード 3,000円分



長期保有期間での加算額	
5年以上10年未満 継続保有	10年以上 継続保有
QUOカード 1,000円分	QUOカード 2,000円分

大石産業株式会社

OHISHI SANGYO CO., LTD.

お問い合わせ先：経営企画室 IR担当

本資料の将来に関わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、現状または将来のリスクや不確実な要素が含まれています。

また、実際の業績は経済情勢の変化、法的規制の変化、自然災害等により変動する可能性があります。

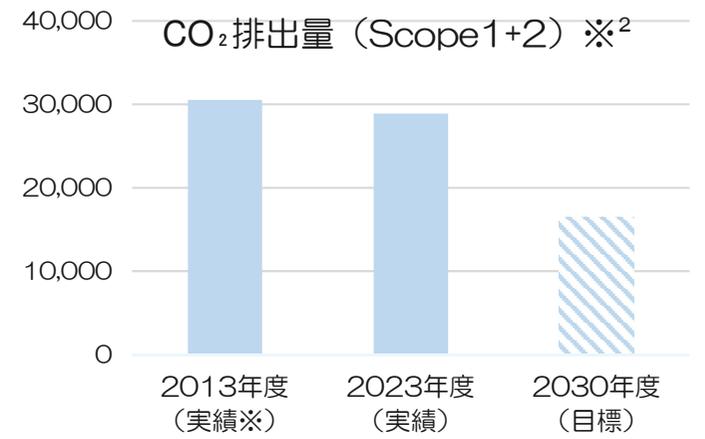
5. 参考資料

Environment

環境問題への取り組み

CO₂排出量の削減

- 目標：2030年までに-46%（2013年度比較）
実績：2023年度 -5%（2013年度比較）※¹
- 目標に向け、太陽光発電システムの導入のほか、受電設備や空調設備等の工場設備の省エネ化、グループ内工場のLED化、省資源・省電力を目指したペーパーレス化、LPGからCO₂排出量の少ないLNGへの使用燃料の転換等を行っている



※¹2013年度は連結子会社のデータ収集が困難であるため、大石産業のみでの実績
2023年度より子会社を含んだデータとしている

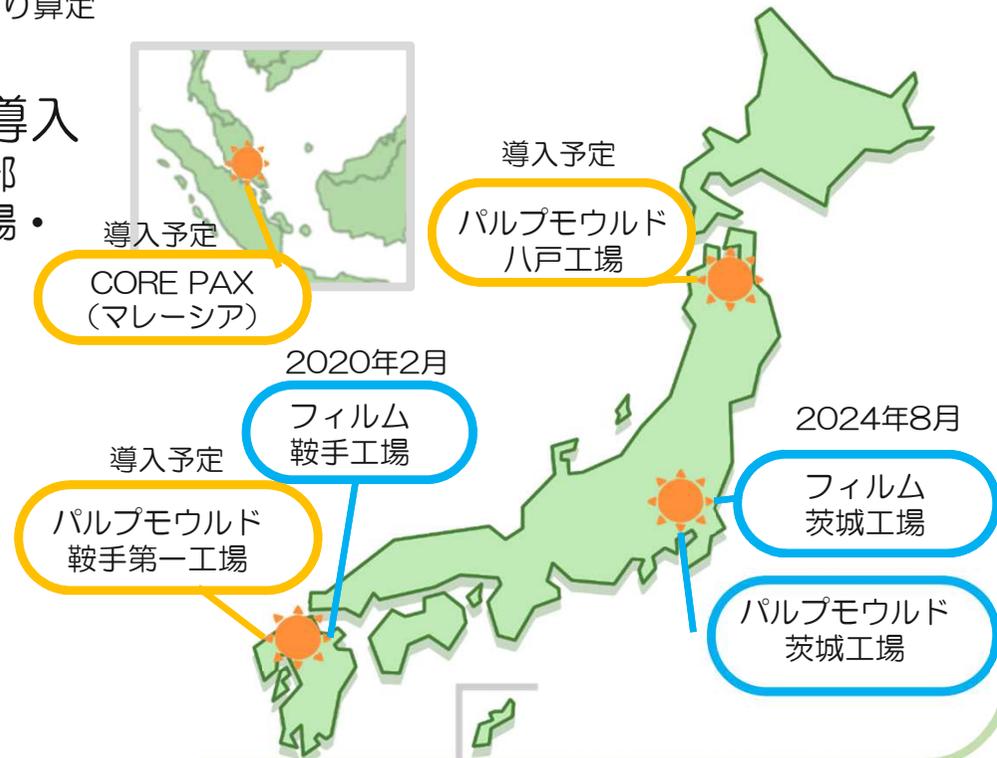
※²「地球温暖化対策の推進に関する法律」（平成10年法律第117号）で定められた算定方法および排出係数により算定
海外の電気に伴うCO₂排出量は、電気事業者が公表している排出係数により算定

太陽光発電システム、再生可能エネルギーの導入

フィルム事業部鞍手工場・茨城工場、パルプモールド事業部茨城工場に導入済み。今後はパルプモールド事業部八戸工場・鞍手工場、CORE PAX(M)SDN.BHD.への導入を検討中



パルプモールド茨城工場 太陽光発電パネル



Environment 環境問題への取り組み

□環境に優しい製品の開発

パルプモールド	<ul style="list-style-type: none"> 脱プラスチック社会に向けたパルプモールド製品需要の創造
段ボール	<ul style="list-style-type: none"> 製品規格変更による包装の減量化
フィルム	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル樹脂やバイオマス樹脂等の再生可能な原料を用いた製品の開発 モノマテリアル化によりリサイクルが容易な機能性多層フィルム製品の開発
重包装袋	<ul style="list-style-type: none"> プラテープの廃止等、脱プラスチック・ゴミレスに繋がる紙袋製品の拡販



□資源の有効活用

- リサイクルによる資源の有効活用、ゴミの削減を目指し、地域や近隣の企業様と連携してオフィス古紙・機密古紙の回収を実施
- お客様のご協力のもと、鶏卵パックの回収も行っており、回収された古紙・パックはパルプモールドの原料として再利用され、限りある資源の有効活用に努めている



Society 社会とのつながり

□ 地域社会への貢献

- ・ 移動式リサイクル工場「アルエコ」を用いて、古紙再利用の啓蒙活動、リサイクル勉強会を実施

□ 人的資本への取り組み

- ・ 階層別、職務別の教育研修の実施
- ・ 女性活躍推進 全社的な女性比率の向上
- ・ 「自己啓発活動支援」制度の設置
各種講座や語学教室の受講など、業務に関する自己啓発活動に対し、費用面でサポート
- ・ 従業員エンゲージメントの向上
- ・ 多様な人材を活用するために人事制度改革を実施

□ ステークホルダーエンゲージメントの向上

- ・ 年2回以上の決算説明を実施、および各種個人投資家向けの説明会を実施



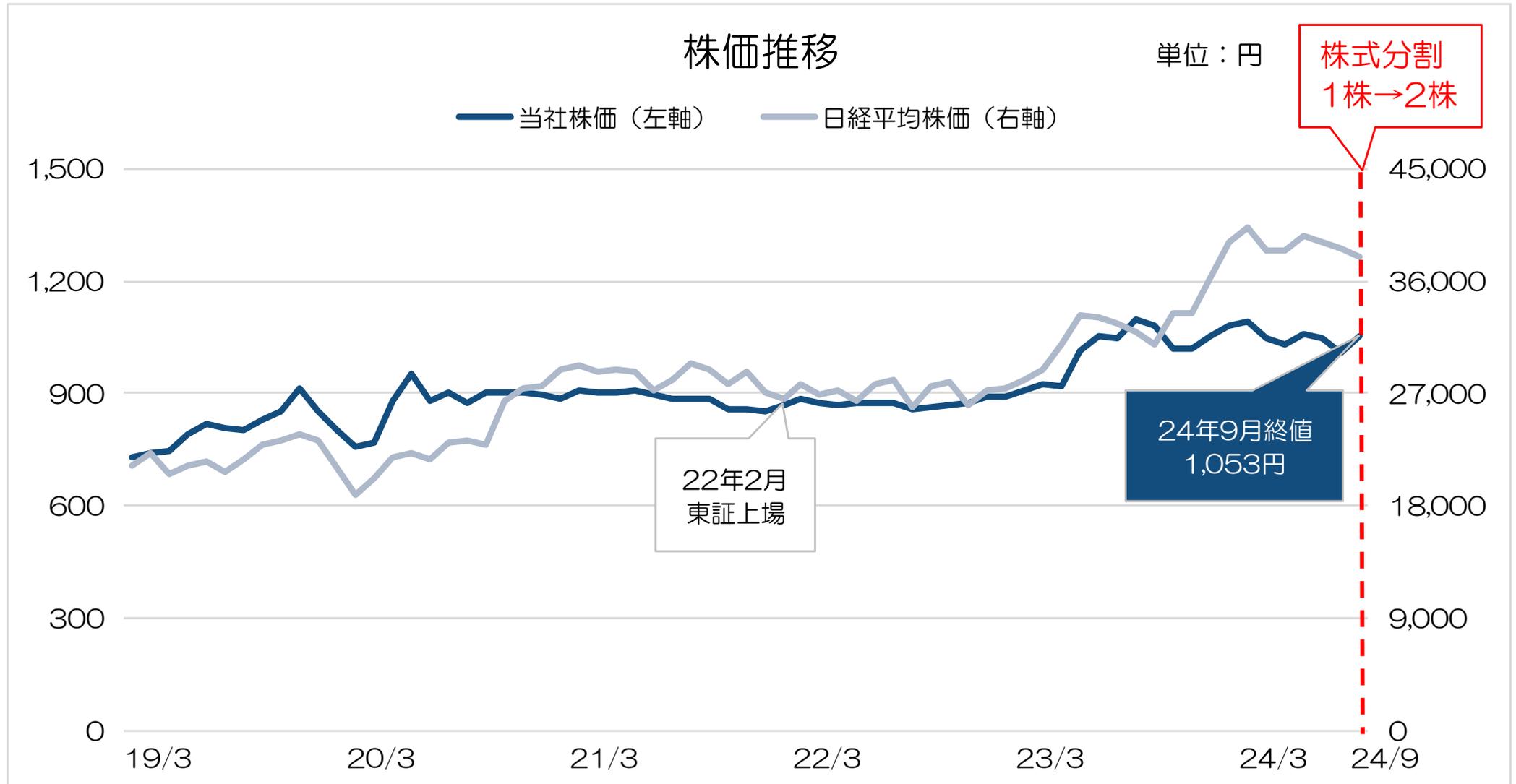
Governance ガバナンスの高度化

□ 今期よりサステナビリティ委員会を設置

- ・ 基本方針の検討、マテリアリティの検討やサステナビリティ戦略について審議し、サステナビリティに関連の問題が事業に与える影響を評価し、対応策の検討や目標設定を行う

□ 指名・報酬諮問委員会を設置

- ・ 取締役の指名・報酬等に関する手続きの公正性・透明性・客観性を強化し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを目的とする



※2024年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で、株式分割を行っております。2019年3月期に当該株式分割が行われたと仮定し、株価を算出しています。